

基調講演 演題「交通政策審議会答申と空港アクセス鉄道」

講師 東京大学大学院工学系研究科 教授 加藤浩徳氏

(1) 交通政策審議会答申について

●交通政策審議会について

- ・交通政策審議会とは交通政策に関わる調査を行うことを目的とし、交通体系分科会から気象分科会まで、国土交通省が行っている案件に関し、大臣からの求めに応じて専門家がアドバイスをするものである。委員は必ずしも工学の専門家だけでなく、経済や環境などの様々な専門家もいる。
- ・東京は、日本の首都で経済の中心でもあることから、中央政府が東京圏の鉄道計画をつくる仕事に直接携わってきた。この政府の計画案を、基本的に審議会が提案するという方法が昔からなされてきている。近年は概ね 15 年に 1 度のペースで新しい計画がつけられる。

●都市鉄道が抱える課題について

①人口増減の地域差（都心は人口増、郊外は人口減）

近年、都心 3 区を中心とする東京都心部で人口が増えており、その周辺も増えている傾向がある。一方で 50km を超える郊外では人口は減っている傾向が見られる。高齢化が進む中で、鉄道利用者が全体として減る傾向にあることは問題だが、着目すべきはその地域差。

②鉄道の混雑の問題

近年、高齢化や少子化による労働人口の減少により鉄道の需要は徐々に低下しつつある。その一方で、景気低迷により鉄道事業者が投資をしなくなったため鉄道の輸送力が横ばいになっており、混雑率が一定以下に下がらなくなった。

③遅延の問題

朝のラッシュ時に遅延が頻発している。その原因の一つは人口が増加している都心の地下鉄駅での混雑による停車時間増加である。東京の都市鉄道の特徴の一つは、相互直通運転が広くネットワークとして発達していることだが、それは地下鉄と郊外の鉄道が繋がっていることを意味し、都心での遅延が郊外にまで影響を及ぼすという問題が発生している。

④都心部の人口増加

若い世代で職住近接の需要が高いことに加え、小泉政権時代に都心部の建物の規制緩和をしたことで、最近では山手線の内側に高層マンションの建設が進み、急激に都心の駅利用者数が増えた。これが都心部の駅で混雑の発生している要因の一つである。

⑤オリンピックとパラリンピックの対応。

今後の東京の行く末を考える上で重要なきっかけとなることは間違いなくとも重要な課題の一つである。

⑥災害対策

政府の予想によると東京圏でマグニチュード7クラスの地震が30年以内に起きる確率が7割くらいとされている。鉄道についてもどのような対応が可能かの検討が必要となっている。

#### ⑦首都圏空港の機能の強化

政府は日本再興戦略を掲げ、成長著しい近隣諸国の元気をもらおうという議論が進められている。そのために外国企業が来やすい環境をつくろうということでアジアヘッドクォーターや国家戦略特区等がつくられ、ヒトやモノの交流を活発化させようという議論がある。羽田空港は国内線の中心であると同時に国際線の中心でもある。これは重要な特徴で、海外の元気をもらう拠点にもなり、それを他の地域に配る中心にもなる。

#### ●審議会での検討内容

審議会では、以下の6点が重要なポイントとして提示された。

- ①国際競争力の強化に資する都市鉄道。これが1番に掲げられたことは注目すべき点。都心のみならず東京圏に複数点在するビジネス・観光拠点と空港、新幹線駅とのアクセスを強化しなければいけない。
- ②豊かな国民生活に資する都市鉄道
- ③まちづくりと連携した持続可能な都市鉄道
- ④駅空間の質的進化、次世代ステーションの創造
- ⑤信頼と安心の都市鉄道、安全運転を前提とした遅延対策の強化
- ⑥災害対策の強力な推進と取組みの「見える化」

#### ●具体的なプロジェクトについて

- ・提案された重要なポイントに見合う形で、審議会は鉄道ネットワークの具体的なプロジェクトについても①国際競争力の強化に資する鉄道ネットワークのプロジェクト、②地域の成長に応じた鉄道ネットワークの充実に資するプロジェクト、③駅空間の質的進化に資するプロジェクトの3つに分けて提示した。
- ・このうち新空港線は、①の国際競争力の強化に資する鉄道ネットワークのプロジェクトの1つに位置づけられ、また③の駅空間の質的進化に資するプロジェクトには、蒲田駅と京急蒲田駅も記載された。

#### (2) 空港アクセス鉄道について

- ・前回の答申時は、グローバル化とは日本の外で起こっていること、という雰囲気だったが、この15年でグローバル化が進み、東京が世界の中で勝ち残らなければならないというアグレッシブな発想に転換した。そのため国際競争力の強化という言葉が今回から強調されるようになった。
- ・先日、東京が世界の都市ランキングの第三位になったというニュースが流れていた。東京は経済が強く、研究開発や文化も充実している一方で、交通アクセスは他都市と比べて順位が低い。これが世界の他都市と比べた時の東京の課題の一つである。
- ・空港アクセス鉄道の整備による効果に関し、研究者の間でいわゆる「広範な効果」に対

する関心が高まっている。空港アクセス鉄道がもたらす地域経済の活性化効果について、もっと前向きに評価されるべきだという考えに転換しつつある。

- そのためには、ヒトや会社が集まっていることが大事。こういうことを「集積」と言う。
- 鉄道はヒト、モノ、カネ、企業、情報が集まる重要な起点になる。この「集積」の効果をもっと重要視する必要がある。空港アクセス鉄道は集積効果を引き起こせる重要なインフラの一つであり、実際、空港アクセス鉄道がある都市ほど経済が活性化している傾向があることは最近の研究でも明らかになっている。

●おわりに

- 空港アクセス鉄道の整備とまちづくりとはコラボレーションしないといけない。例えば、企業誘致や、既存の企業の国際化、観光客やビジネス客向けのサービス提供、空港を活かした都市の整備、これらを合わせて行うことが空港アクセス鉄道の価値を高め、国際競争力の強化にも貢献できる重要な方向性だと考えている。